

輸入生鮮キハダマグロの流通過程に関する研究

〔概要〕

日本は世界のマグロ生産量の 15%を漁獲し、30%を消費している。経年的に日本の漁獲量は減少し、輸入代替が生じている。生鮮と冷凍という流通形態のうち生鮮マグロの流通について、フィリピン・インドネシア・大阪での実態調査(ケーススタディ)から明らかにされた問題点を指摘する。効率性・公平性の観点からこの問題を解決することはしかし、産地価格の上昇をもたらすので、輸出国の資源の持続的利用とは相容れない結果を導く。